

シリーズ 61

我が家の家庭教育

篠原 小川 喜子

「我が家の家庭教育」と言われてもすぐにことばがでなかつた。なぜかと言うと特に意識して家庭教育など行っていないからである。我が家ではどのような教育をしているのだろうか」と改めて考えてしまった。

親の願いとしては、「よい子に育ててほしい」ただそれだけである。どこの親も同じではないかと思う。ところが、その「よい子」とはどんな子供か。まず成績がよくて、素直で、友達と上手につきあえ

て、向上心があつて……、と願いは尽きない。

それでは、どうしたら「よい子」に育てられるか。我が家ではどんな努力をしているのだろうか。「勉強しなさい。宿題は終わったか。」は毎日の口癖である。とにかく勉強のことは学校で教えてくれるだろう。家庭

でなくてはできない事はなにか。家庭は子供

を育てる苗床である。まず温かくなくてはいけない。明るい光がなくてもいけない。栄養も与えなくてはいけない。時々は消毒も必要である。

家庭は

子どもを育てる苗床である

我が家を振り返ってみよう。まず第一に自信をもって言える事は家庭円満であること。家庭が円満であるということとは、当然温かさも有り、明るさもでてくる。

家庭円満の秘訣はというと、家族というものは決して肉親だけの集まりではない。特に

我が家のように親子三世同居家族になると「元は他人」と言われる者同士の集まりである。ところが、よく人から言わ

れることは、「家族みんなが本当の親子みたいだね。」である。そのとおり家族みんながお互いを尊重しあい、思いやり、相手の気持ちになつて日

常をおくっているのである。時々脱線することもあるが、家庭内での口争いは一度もない。



家庭円満の小川さんご一家

お父さんである。子供達には非常に厳しい。子供達はお父さんが一番怖い存在であり又、不思議と大好きなのである。そしておじいちゃん、おばあちゃんを大切にすることを身をもって教えているのも、お父さんである。そして、おじいちゃん、おばあちゃんもお父さんに対して尊敬と感謝の気持ちを持っている。

このような夫や両親をもって私はとても幸せだと感じると同時に、自分の為にも子供への家庭教育の為にも、もっともつと心を磨き、勉強を重ね、親を大切に子供達への手本となるよう努力していきたいと思う。

児童・生徒

作品コーナー

今月の児童・生徒の作品コーナーは、日吉小学校児童の作品をご紹介します。



石とう



4年 伊橋 純平くん

石とうの色合いに気をつけて仕上げました。

